

認定看護師教育基準カリキュラム
 (特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関)
 改正概要

分野	感染管理		
分野特定年	1998 年	認定開始年	2001 年
カリキュラム検討期間	2019 年 4 月～2020 年 2 月		
【改正趣旨】			
感染管理分野の教育基準カリキュラムは 2014 年度の改正から 5 年が経過するため見直しを行い、感染管理に関する近年の情勢から学習が必要な内容を単元に追加し、文言を適切な表現に修正した。また、60 時間で設定されていた教科目「微生物・感染症学」は「微生物学」「感染症学（概論）」「感染症学（各論）」の 3 つに分割し、15 時間または 30 時間の設定に変更した。45 時間で設定されていた教科目「医療関連感染サーベイランス」は「医療関連感染サーベイランス概論」「医療関連感染サーベイランス各論」の 2 つに分割し、15 時間または 30 時間の設定に変更した。			
【主な改正箇所】※詳細は別紙「新旧対照表」参照			
[専門基礎科目] 1) 教科目「1. 感染管理学」 ・教科目のねらい 2) に「自施設及び地域における感染リスクのアセスメントが理解できる。」を、単元に「自施設及び地域における感染リスクのアセスメント」を追加した。 2) 教科目「2. 疫学と統計学」 ・旧単元 1) (2) 「関連に関する指標」は「リスク推定の指標」に、「検査に使用する指標」は「妥当性に関する指標」に変更した。 3) 教科目「3. 微生物学」「4. 感染症学各論」「5. 感染症学各論」 ・旧教科目「微生物・感染症学」(60 時間)を 3 つの教科目に分けた。 「微生物学」(15 時間)、「感染症学（概論）」(15 時間)、「感染症学（各論）」(30 時間) 4) 教科目「3. 微生物学」 ・旧単元 2) (1) の文言を整理した。 5) 教科目「5. 感染症学各論」 ・旧単元 3) (4) から「肺炎」を別立ての項目とした。 ・旧単元 3) (4) の感染症名の表記を「 <i>Clostridioides difficile</i> 」「ヒト免疫不全ウイルス感染症」「母子感染による感染症」に変更し、「クロイツフェルト・ヤコブ病」を追加した。			
[専門科目] 1) 教科目「1. 医療関連感染サーベイランス概論」「2. 医療関連感染サーベイランス各論」 ・旧教科目「医療関連感染サーベイランス」(45 時間)を 2 つの教科目に分けた。 「医療関連感染サーベイランス概論」(15 時間)、「医療関連感染サーベイランス各論」(30 時間) 2) 教科目「2. 医療関連感染サーベイランス各論」 ・教科目のねらいは修得段階に応じた順序に変更した。 ・旧単元 2) (1) は (1) 「医療器具関連感染サーベイランス（カテーテル関連血流感染、人工呼吸器関連肺炎、カテーテル関連尿路感染）」と (2) 「手術部位感染サーベイランス」に単元を分けて整理した。 3) 教科目「3. 感染防止技術」 ・旧単元 1) (3) は、「医療器具関連感染予防策（血流感染、尿路感染、人工呼吸器関連肺炎）」と「手術部位感染予防策」に分けて整理した。 ・旧単元 2) (1) 及び (6) は「集中治療部門（成人）」「新生児・小児集中治療部門」「周産期部門」「小児部門」に整理した。 4) 教科目「4. 職業感染管理」 ・旧ねらい 2) 、4) 、5) の文言を整理した。			

**認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)
新旧対照表(感染管理)**

別紙

下線部は改正箇所

【目的・期待される能力】

旧	新	改正理由
<p>(目的)</p> <ol style="list-style-type: none"> 医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族に対し、専門的知識と高度な技術に基づいて医療関連感染の予防と管理を実践できる能力を育成する。 医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族に対し、医療関連感染の予防と管理について指導できる能力を育成する。 医療関連感染の予防と管理について、医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族からの相談に対応し、問題解決に向けた支援ができる能力を育成する。 	<p>(目的)</p> <ol style="list-style-type: none"> 医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族に対し、専門的知識と高度な技術に基づいて医療関連感染の予防と管理を実践できる能力を育成する。 医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族に対し、医療関連感染の予防と管理について指導できる能力を育成する。 医療関連感染の予防と管理について、医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族からの相談に対応し、問題解決に向けた支援ができる能力を育成する。 	<p>変更なし。</p>
<p>(期待される能力)</p> <p>施設の中心となって多職種と協働しながら、医療関連感染の予防と管理を推進するために以下の能力を身につけることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 施設の状況を評価し、医療関連感染予防・管理システムを組織的かつ戦略的に構築するための計画を立案できる。 医療関連感染予防・管理システムの運用、評価、改善を実践できる。 施設の状況にあわせた医療関連感染サーベイランスを実践できる。 医療関連感染の予防と管理に関する科学的根拠を評価し、医療を提供する場で実施されているケアの改善に活用できる。 医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族に対し、医療関連感染の予防と管理について指導できる。 医療関連感染の予防と管理について、医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族からの相談に対応し、問題解決に向けた支援ができる。 医療を提供する場で働くあらゆる人々からの相談に対応し、職業感染防止を推進できる。 医療関連感染の予防と管理の視点からファシリティ・マネジメント(施設管理)を推進できる。 関連組織と協働して、パンデミックや災害等の緊急事態を想定した準備と対応ができる。 医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族に対し、倫理的配慮を行いながら医療関連感染の予防と管理が実践できる。 上記1～10を通して感染管理分野の役割モデルを示す。 	<p>(期待される能力)</p> <p>施設の中心となって多職種と協働しながら、医療関連感染の予防と管理を推進するために以下の能力を身につけることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 施設の状況を評価し、医療関連感染予防・管理システムを組織的かつ戦略的に構築するための計画を立案できる。 医療関連感染予防・管理システムの運用、評価、改善を実践できる。 施設の状況にあわせた医療関連感染サーベイランスを実践できる。 医療関連感染の予防と管理に関する科学的根拠を評価し、医療を提供する場で実施されているケアの改善に活用できる。 医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族に対し、医療関連感染の予防と管理について指導できる。 医療関連感染の予防と管理について、医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族からの相談に対応し、問題解決に向けた支援ができる。 医療を提供する場で働くあらゆる人々からの相談に対応し、職業感染防止を推進できる。 医療関連感染の予防と管理の視点からファシリティ・マネジメント(施設管理)を推進できる。 関連組織と協働して、パンデミックや災害等の緊急事態を想定した準備と対応ができる。 医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族に対し、倫理的配慮を行いながら医療関連感染の予防と管理が実践できる。 上記1～10を通して感染管理分野の役割モデルを示す。 	<p>変更なし。</p>

認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)
新旧対照表(感染管理)

別紙

下線部は改正箇所

【共通科目】

旧		新		改正理由
教科目	時間数 必修/選択	教科目	時間数 必修/選択	
1. 医療安全学：医療倫理	15 (必修)	1. 医療安全学：医療倫理	15 (必修)	変更なし。
2. 医療安全学：医療安全管理	15 (必修)	2. 医療安全学：医療安全管理	15 (必修)	
3. 医療安全学：看護管理	15 (必修)	3. 医療安全学：看護管理	15 (必修)	
5. チーム医療論 (特定行為実践)	15 (必修)	5. チーム医療論 (特定行為実践)	15 (必修)	
6. 相談 (特定行為実践)	15 (必修)	6. 相談 (特定行為実践)	15 (必修)	
4. 臨床薬理学：薬理作用	15 (必修)	4. 臨床薬理学：薬理作用	15 (必修)	
7. 指導	15 (必修)	7. 指導	15 (必修)	
8. 特定行為実践	15 (選択)	8. 特定行為実践	15 (選択)	
9. 臨床薬理学：薬物動態	15 (選択)	9. 臨床薬理学：薬物動態	15 (選択)	
10. 臨床薬理学：薬物治療・管理	30 (選択)	10. 臨床薬理学：薬物治療・管理	30 (選択)	
11. 臨床病態生理学	40 (選択)	11. 臨床病態生理学	40 (選択)	
12. 臨床推論	45 (選択)	12. 臨床推論	45 (選択)	
13. 臨床推論：医療面接	15 (選択)	13. 臨床推論：医療面接	15 (選択)	
14. フィジカルアセスメント：基礎	30 (選択)	14. フィジカルアセスメント：基礎	30 (選択)	
15. フィジカルアセスメント：応用	30 (選択)	15. フィジカルアセスメント：応用	30 (選択)	
16. 疾病・臨床病態概論	40 (選択)	16. 疾病・臨床病態概論	40 (選択)	
17. 疾病・臨床病態概論：状況別	15 (選択)	17. 疾病・臨床病態概論：状況別	15 (選択)	
18. 医療情報論	15 (選択)	18. 医療情報論	15 (選択)	
19. 対人関係	15 (選択)	19. 対人関係	15 (選択)	
計	105 (+305)	計	105 (+305)	

認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)
新旧対照表(感染管理)

別紙

下線部は改正箇所

u003cbr>

【専門基礎科目】

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
1. 感染管理学	15	1) 医療関連感染の予防と管理の歴史と変遷について理解できる。 2) 感染管理認定看護師の活動の実際について理解できる。 (1) 感染管理認定看護師の役割と機能(他職種との連携を含む)について理解できる。 (2) 感染管理認定看護師の役割と機能を発揮するための姿勢や手法について理解できる。	1) 医療関連感染予防・管理概論 (1) 医療関連感染予防・管理の歴史と変遷 2) 感染管理認定看護師の役割 (1) 感染管理認定看護師の役割と機能(他職種との連携を含む) (2) 感染管理認定看護師の活動の実際	1. 感染管理学	15	1) 医療関連感染の予防と管理の歴史と変遷について理解できる。 2) 感染管理認定看護師の活動の実際について理解できる。 (1) 感染管理認定看護師の役割と機能(多職種との連携を含む)について理解できる。 (2) 感染管理認定看護師の役割と機能を発揮するための姿勢や手法について理解できる。 (3) <u>自施設及び地域における感染リスクのアセスメントが理解できる。</u>	1) 医療関連感染予防・管理概論 (1) 医療関連感染予防・管理の歴史と変遷 2) 感染管理認定看護師の役割 (1) 感染管理認定看護師の役割と機能(多職種との連携を含む) (2) 感染管理認定看護師の活動の実際 3) <u>自施設及び地域における感染リスクのアセスメント</u>	・旧教科目のねらい2) (1) 及び旧単元2) (1) の「他職種」の文言を「多職種」に変更し、他の分野と表記を揃えた。 ・専門科目「4. 感染管理指導と相談」旧単元1) (1) の「施設のアセスメント」を「1. 感染管理学」の教科目のねらい2) (3) 及び単元3) に文言を整理して追加した。

認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)
新旧対照表(感染管理)

別紙

下線部は改正箇所

u003cbr>

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
2. 疫学と統計学	30	1) 医療関連感染の予防と管理に必要な疫学の基礎知識を理解できる。 2) 医療関連感染の予防と管理に必要な統計学の基礎知識を理解できる。 3) アウトブレイク対応の具体的な手法を理解できる。	1) 医療関連感染予防・管理の基礎となる疫学 (1) 疫学用語の定義 (2) 疫学的指標 ・罹患、有病、死亡に関する指標 ・ <u>関連に関する指標</u> (相対リスク、オッズ比等) ・ <u>検査に使用する指標</u> (感度・特異度・的中率等) (3) 疫学研究デザインの種類と特徴 2) 医療関連感染予防・管理の基礎となる統計学 (1) 変数の種類と特徴 (2) 記述統計 ・度数分布表とヒストグラム ・中心傾向：平均値、中央値、最頻値 ・分布：範囲、パーセンタイル、標準偏差、正規分布とゆがんだ分布 (3) 推測統計 ・点推定、区間推定 ・仮説検定の手法(感染予防と管理に頻用するパラメトリック検定とノンパラメトリック検定：T検定、 X^2 検定等) 3) アウトブレイクの調査・介入 (1) アウトブレイク調査・介入に関する基本的な考え方と手順	2. 疫学と統計学	30	1) 医療関連感染の予防と管理に必要な疫学の基礎知識を理解できる。 2) 医療関連感染の予防と管理に必要な統計学の基礎知識を理解できる。 3) アウトブレイク対応の具体的な手法を理解できる。	1) 医療関連感染予防・管理の基礎となる疫学 (1) 疫学用語の定義 (2) 疫学的指標 ・罹患、有病、死亡に関する指標 ・ <u>リスク推定の指標</u> (相対リスク、オッズ比等) ・ <u>妥当性に関する指標</u> (感度・特異度・的中率等) (3) 疫学研究デザインの種類と特徴 2) 医療関連感染予防・管理の基礎となる統計学 (1) 変数の種類と特徴 (2) 記述統計 ・度数分布表とヒストグラム ・中心傾向：平均値、中央値、最頻値 ・分布：範囲、パーセンタイル、標準偏差、正規分布とゆがんだ分布 (3) 推測統計 ・点推定、区間推定 ・仮説検定の手法(感染予防と管理に頻用するパラメトリック検定とノンパラメトリック検定：T検定、 X^2 検定等) 3) アウトブレイクの調査・介入 (1) アウトブレイク調査・介入に関する基本的な考え方と手順	・旧単元 1) (2) 「疫学的指標」を明確に表現するために、「関連に関する指標」は「リスク推定の指標」に、「検査に使用する指標」は「妥当性に関する指標」に表記を変更した。

認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)
新旧対照表(感染管理)

別紙

下線部は改正箇所

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
3. <u>微生物・感染症学</u>	60	1) 病原微生物の分類と特徴が理解できる。 2) 医療関連感染で問題となる微生物・感染症について理解できる。 3) 薬剤耐性獲得のメカニズムが理解できる。 4) 薬剤耐性菌の種類と特徴について理解できる。 5) 感染症の検査の概要及び検体の取り扱い等について理解できる。 6) 免疫機構と感染の成立について理解できる。 7) 易感染状態について理解できる。 8) 抗微生物薬の種類と薬理作用について理解できる。 9) 主な感染症の診断・治療・予防について理解できる。 10) 薬剤耐性菌感染症の診断・治療について理解できる。 11) 新興・再興感染症、輸入感染症について理解できる。 12) ワクチンで予防可能な感染症について理解できる。	1) 微生物学 (1) 病原微生物の分類と特徴 (2) 医療関連感染で問題となる微生物 (3) 薬剤耐性獲得のメカニズム (4) 薬剤耐性菌の種類と特徴 2) 感染症の検査 (1) 鏡検、PCR、免疫・血清学的(迅速検査、ペア血清、インターフェロノン遊離試験等)、培養、感受性試験等の目的、原理、結果の解釈、活用 (2) 適切な検体の採取方法と取り扱い (3) 検査の感度と特異度 3) 感染症学 (1) 免疫機構と感染の成立(新生児・高齢者の免疫機能の特徴を含む) (2) 易感染状態の理解(移植・熱傷・がん化学療法・放射線療法・HIV/AIDS等) (3) 抗微生物薬の種類と薬理作用 (4) 主な感染症の診断・治療・予防 ・ <u>血流感染、尿路感染、肺炎(いづれも医療器具関連感染を含む)</u> ・手術部位感染 ・ <u>感染性胃腸炎(Clostridium difficile感染症を含む)</u> ・結核	3. <u>微生物学</u>	15	1) 病原微生物の分類と特徴が理解できる。 2) 医療関連感染で問題となる微生物・感染症について理解できる。 3) 薬剤耐性獲得のメカニズムが理解できる。 4) 薬剤耐性菌の種類と特徴について理解できる。 5) 感染症の検査の概要及び検体の取り扱い等について理解できる。	1) 微生物学 (1) 病原微生物の分類と特徴 (2) 医療関連感染で問題となる微生物 (3) 薬剤耐性獲得のメカニズム (4) 薬剤耐性菌の種類と特徴 2) 感染症の検査 (1) 鏡検、 <u>免疫・血清学的検査</u> (迅速検査、ペア血清、インターフェロノン遊離試験等)、 <u>遺伝子検査</u> 、培養、感受性試験等の目的、原理、結果の解釈、活用 (2) 適切な検体の採取方法と取り扱い (3) 検査の感度と特異度	・旧教科目「3. 微生物・感染症学」の60時間は1教科目として長時間であるため、「3. 微生物学」「4. 感染症学(概論)」「5. 感染症学(各論)」の3教科目に分割した。 ・旧単元2) (1) の「PCR」はPRC以外に新たな検査方法があるため「遺伝子検査」に名称を変更し、「免疫・血清学的」は「免疫・血清学的検査」とした。
				4. <u>感染症学概論</u>	15	1) 免疫機構と感染の成立について理解できる。 2) 易感染状態について理解できる。 3) 抗微生物薬の種類と薬理作用について理解できる。	1) 免疫機構と感染の成立(新生児・高齢者の免疫機能の特徴を含む) 2) 易感染状態の理解(移植・熱傷・がん化学療法・放射線療法・ヒト免疫不全ウイルス感染症等) 3) 抗微生物薬の種類と薬理作用	

認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)
新旧対照表(感染管理)

別紙

下線部は改正箇所

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
			<ul style="list-style-type: none"> ・ 流行性ウイルス感染症 ・ ウイルス性肝炎 ・ <u>HIV/AIDS</u> ・ 髄膜炎 ・ 疥癬 ・ <u>母子感染</u> <p>(5) 薬剤耐性菌感染症の診断・治療</p> <p>(6) 新興・再興感染症、輸入感染症の理解</p> <p>(7) ワクチンで予防可能な感染症</p>	5. <u>感染症学各論</u>	30	<p>1) 主な感染症の診断・治療・予防について理解できる。</p> <p>2) 薬剤耐性菌感染症の診断・治療について理解できる。</p> <p>3) 新興・再興感染症、輸入感染症について理解できる。</p> <p>4) ワクチンで予防可能な感染症について理解できる。</p>	<p>1) 主な感染症の診断・治療・予防</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>血流感染、尿路感染(いずれも医療器具関連感染を含む)</u> ・ 手術部位感染 ・ <u>肺炎</u> ・ 感染性胃腸炎 ・ <u>(Clostridioides difficile)感染症を含む)</u> ・ 結核 ・ 流行性ウイルス感染症 ・ ウイルス性肝炎 ・ <u>ヒト免疫不全ウイルス感染症</u> ・ 髄膜炎 ・ 疥癬 ・ <u>クロイツフェルト・ヤコブ病</u> ・ <u>母子感染による感染症</u> <p>2) 薬剤耐性菌感染症の診断・治療</p> <p>3) 新興・再興感染症、輸入感染症の理解</p> <p>4) ワクチンで予防可能な感染症</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旧単元 3) (4) の「血流感染、尿路感染、肺炎(いずれも医療器具関連感染を含む)」の内容を整理し、「肺炎」を別項目とした。 ・ 旧単元 3) (4) の「<i>Clostridium difficile</i>」は菌名が旧称であるため変更した。また、「HIV/AIDS」は略語のため、和名での表記に変更した。 ・ クロイツフェルト・ヤコブ病は、最新の対策等を理解する必要があるため、単元を追加した。 ・ 単元を感染症名に揃えるため、旧単元 3) (4) の「母子感染」を「母子感染による感染症」とした。

**認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)
新旧対照表(感染管理)**

別紙

下線部は改正箇所

u003cbr>

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
4. 医療管理学	15	1) 医療関連感染の予防と管理に関する政策や診療報酬制度について理解できる。 2) 医療法、感染症法、学校保健安全法、予防接種法等の関連法規・制度の種類とその内容について理解できる。 3) 医療における質の改善と評価について理解できる。 4) 医療関連感染の予防と管理における危機管理について理解できる。	1) 医療提供システム (1) 政策と診療報酬 (2) 関係法規(医療法、感染症法、学校保健安全法、予防接種法等) 2) 医療における質と効率 (1) 第三者評価 (2) 費用対効果 3) 医療関連感染の予防と管理における危機管理 (1) リスクコミュニケーション (2) 感染と訴訟 ※リスクコミュニケーション 感染症やアウトブレイクのリスク、現状、対策などに関する情報や意見を分かりやすい方法で個人、集団、組織間で交換し、相互理解を深めるプロセス	6. 医療管理学	15	1) 医療関連感染の予防と管理に関する政策や診療報酬制度について理解できる。 2) 医療法、感染症法、学校保健安全法、予防接種法等の関連法規・制度の種類とその内容について理解できる。 3) 医療における質の改善と評価について理解できる。 4) 医療関連感染の予防と管理における危機管理について理解できる。	1) 医療提供システム (1) 政策と診療報酬 (2) 関係法規(医療法、感染症法、学校保健安全法、予防接種法等) 2) 医療における質と効率 (1) 第三者評価 (2) 費用対効果 3) 医療関連感染の予防と管理における危機管理 (1) リスクコミュニケーション (2) 感染と訴訟 ※リスクコミュニケーション 感染症やアウトブレイクのリスク、現状、対策などに関する情報や意見を分かりやすい方法で個人、集団、組織間で交換し、相互理解を深めるプロセス	変更なし。
計	120			計	120			

認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)
新旧対照表(感染管理)

別紙

下線部は改正箇所

u003c/div>

【専門科目】

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
1. 医療関連感染サーベイランス	45	1) 医療関連感染サーベイランスの概念について理解できる。 2) 医療関連感染サーベイランス・プログラムの立案と実施について理解し、実践できる。 3) サーベイランスデータの分析及び活用方法について理解し、実践できる。 4) 代表的な医療関連感染サーベイランスの種類と具体的手法について理解し、実践できる。	1) サーベイランス概論 (1) サーベイランスの定義・目的 (2) サーベイランスの種類 (3) サーベイランス実施に向けた施設のアセスメント (4) サーベイランス・プログラムの要素と計画立案 (5) 実施方法(分母・分子の考え方、リスク調整等) (6) 医療関連感染サーベイランスデータの分析及び活用方法 2) 医療関連感染サーベイランス各論 (1) <u>侵襲的器具・処置に関連するサーベイランス(血流感染、尿路感染、肺炎、手術部位感染など)</u> (2) プロセスサーベイランス (3) 微生物サーベイランス(薬剤耐性菌などの主要な微生物) (4) 感染症サーベイランス(<i>Clostridium difficile</i> 感染症や結核などの感染症) (5) 症候群サーベイランス	1. <u>医療関連感染サーベイランス概論</u>	15	1) 医療関連感染サーベイランスの概念について理解できる。	1) サーベイランス概論 (1) サーベイランスの定義・目的 (2) サーベイランスの種類 (3) サーベイランス実施に向けた施設のアセスメント (4) サーベイランス・プログラムの要素と計画立案 (5) 実施方法(分母・分子の考え方、リスク調整等) (6) 医療関連感染サーベイランスデータの分析及び活用方法	・旧教科目「1. 医療関連感染サーベイランス」の45時間は1教科目として長時間であるため、「1. 医療関連感染サーベイランス概論」「2. 医療関連感染サーベイランス各論」の2教科目に分割した。
				2. <u>医療関連感染サーベイランス各論</u>	30	1) <u>サーベイランスデータの分析及び活用方法について理解し、実践できる。</u> 2) 代表的な医療関連感染サーベイランスの種類と具体的手法について理解し、実践できる。 3) <u>医療関連感染サーベイランス・プログラムの立案と実施について理解し、実践できる。</u>	1) 医療関連感染サーベイランス各論 (1) <u>医療器具関連感染サーベイランス(カテーテル関連血流感染、人工呼吸器関連肺炎、カテーテル関連尿路感染)</u> (2) <u>手術部位感染サーベイランス</u> (3) プロセスサーベイランス (4) 微生物サーベイランス(薬剤耐性菌などの主要な微生物) (5) 感染症サーベイランス(<i>Clostridioides difficile</i> 感染症や結核などの感染症) (6) 症候群サーベイランス	・教科目のねらいは修得段階に応じた順序に変更した。 ・旧単元2)(1)は単元(1)「医療器具関連感染サーベイランス(カテーテル関連血流感染、人工呼吸器関連肺炎、カテーテル関連尿路感染)」と(2)「手術部位感染サーベイランス」に分割し整理した。 ・旧単元2)(4)の「 <i>Clostridium difficile</i> 」は菌名が旧称であるため最新の名称に変更した。

8

認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)
新旧対照表(感染管理)

別紙

下線部は改正箇所

u003cbr>

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
2. 感染防止技術	30	1) ガイドライン等で推奨されている感染予防策の内容及び科学的根拠について理解し、説明することができる。 2) 科学的根拠に基づいて実施が推奨される感染予防策のアドヒアランスを向上するための取り組みについて理解し、実践できる。 3) 特有の感染リスクを有する部門において、ガイドライン等で推奨されている感染予防策の内容及び科学的根拠について理解し、説明することができる。	1) 感染予防策とアドヒアランス向上のための取り組み (1) 標準予防策 (2) 感染経路別予防策 (3) <u>侵襲的処置別感染予防策(血流感染、尿路感染)</u> (4) 手術部位感染予防策 (5) 肺炎予防策 2) 部門別感染予防 (1) <u>集中治療部門</u> (2) 手術部門 (3) 救急部門(熱傷管理を含む) (4) 外来部門(日帰り手術・化学療法等) (5) 移植部門 (6) <u>小児・新生児部門</u> (7) 内視鏡部門 (8) 透析部門 (9) 高齢者施設/在宅 3) パンデミックや災害等の緊急事態を想定した準備と対応 (1) パンデミック、災害における感染管理認定看護師の役割 (2) パンデミック、災害への備え (3) パンデミック、災害発生時の対応	3. 感染防止技術	30	1) ガイドライン等で推奨されている感染予防策の内容及び科学的根拠について理解し、説明することができる。 2) 科学的根拠に基づいて実施が推奨される感染予防策のアドヒアランスを向上するための取り組みについて理解し、実践できる。 3) 特有の感染リスクを有する部門において、ガイドライン等で推奨されている感染予防策の内容及び科学的根拠について理解し、説明することができる。	1) 感染予防策とアドヒアランス向上のための取り組み (1) 標準予防策 (2) 感染経路別予防策 (3) <u>医療器具関連感染予防策(血流感染、尿路感染、人工呼吸器関連肺炎)</u> (4) 手術部位感染予防策 2) 部門別感染予防 (1) <u>集中治療部門(成人)</u> (2) <u>新生児・小児集中治療部門</u> (3) 手術部門 (4) 救急部門(熱傷管理を含む) (5) 外来部門(日帰り手術・化学療法等) (6) 移植部門 (7) <u>周産期部門</u> (8) <u>小児部門</u> (9) 内視鏡部門 (10) 透析部門 (11) 高齢者施設/在宅 3) パンデミックや災害等の緊急事態を想定した準備と対応 (1) パンデミック、災害における感染管理認定看護師の役割 (2) パンデミック、災害への備え (3) パンデミック、災害発生時の対応	・旧単元 1) (3)「侵襲的処置別感染予防策」の内容を整理し、「医療器具関連感染予防策(血流感染、尿路感染、人工呼吸器関連肺炎)」に変更した。 ・旧単元 1) (5)「肺炎予防策」は、単元 1) (1) (3) 及び単元 2) (11) に含まれるため削除した。 ・旧単元 2) (1) 集中治療部門、(6) 小児・新生児部門の対象区分を整理し、追加・変更した。
3. 職業感染管理	15	1) 職業感染管理の目的が理解できる。 2) <u>労働衛生安全教育の必要性が理解できる。</u> 3) 職業感染の原因となる微生物の特徴が理解できる。 4) <u>職業感染の予防策を理解し、実践できる。</u> 5) <u>接触者への対応や感染源調査の方法を理解し、実践できる。</u>	1) 労働安全衛生 2) 職業感染予防・管理 (1) 血液媒介病原体による針刺し・切創・汚染予防と曝露後対応(ヒト免疫不全ウイルス、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルスなど) (2) 流行性ウイルス感染症の予防と曝露後対応(麻疹、水痘、風疹、流行性耳下腺炎、インフルエンザ) (3) 結核の曝露後対応 (4) その他(流行性角結膜炎、疥癬、感染性胃腸炎など)	4. 職業感染管理	15	1) 職業感染管理の目的が理解できる。 2) <u>労働安全衛生教育の必要性が理解できる。</u> 3) 職業感染の原因となる微生物の特徴が理解できる。 4) <u>職業感染の予防策と発生時の対応を理解し、実践できる。</u> 5) <u>感染性微生物曝露者・接触者への対応や、感染源の調査方法を理解し、実践できる。</u>	1) 労働安全衛生 2) 職業感染予防・管理 (1) 血液媒介病原体による針刺し・切創・汚染予防と曝露後対応(ヒト免疫不全ウイルス、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルスなど) (2) 流行性ウイルス感染症の予防と曝露後対応(麻疹、水痘、風疹、流行性耳下腺炎、インフルエンザ) (3) 結核の曝露後対応 (4) その他(流行性角結膜炎、疥癬、感染性胃腸炎など)	・労働安全衛生法に基づく表記とするため、旧教科目のねらい 2) を変更した。 ・職業感染は予防と同時に発生時の対応が重要であるため、旧教科目のねらい 4) を変更した。 ・何に対する曝露者・接触者であるのかを明確にする必要があるため、旧教科目のねらい 5) を変更した。

認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)
新旧対照表(感染管理)

別紙

下線部は改正箇所

u003cbr>

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
4. 感染管理指導と相談	15	1) 施設における医療関連感染の予防と管理に関する指導プログラムの立案・実施・評価について理解し、実践できる。 2) 職員が医療関連感染の予防と管理に関して行動を変容できるための具体的な方策について理解し、実践できる。 3) 医療関連感染の予防と管理に関する相談システムの構築方法について理解し、実践できる。 4) 医療関連感染の予防と管理に関する相談の実践について理解し、実践できる。	1) 医療関連感染の予防と管理に関する施設内外での指導 <u>(1) 施設のアセスメント</u> <u>(2) 指導計画の立案と評価</u> <u>(3) 指導の実際</u> 2) 医療関連感染の予防と管理に関する施設内外での相談 (1) 相談システムの構築 (2) 相談の実際 ・ 医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族に対する指導、相談を含む ・ 地域連携に関わる指導、相談を含む	5. 感染管理指導と相談	15	1) 施設における医療関連感染の予防と管理に関する指導プログラムの立案・実施・評価について理解し、実践できる。 2) 職員が医療関連感染の予防と管理に関して行動を変容できるための具体的な方策について理解し、実践できる。 3) 医療関連感染の予防と管理に関する相談システムの構築方法について理解し、実践できる。 4) 医療関連感染の予防と管理に関する相談の実践について理解し、実践できる。	1) 医療関連感染の予防と管理に関する施設内外での指導 <u>(1) 指導計画の立案と評価</u> <u>(2) 指導の実際</u> 2) 医療関連感染の予防と管理に関する施設内外での相談 (1) 相談システムの構築 (2) 相談の実際 ・ 医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族に対する指導、相談を含む ・ 地域連携に関わる指導、相談を含む	・旧単元1)(1)は、専門基礎科目「1.感染管理学」に含めた。
5. 洗浄・消毒・滅菌とファシリティ・マネジメント	15	1) 洗浄・消毒・滅菌の原則について理解し、説明することができる。 2) 洗浄・消毒・滅菌が適切に行われるために、感染管理認定看護師が行う活動内容について理解し、実践できる。 3) ファシリティ・マネジメント(施設管理)の原則と実際について理解し、実践できる。	1) 洗浄・消毒・滅菌の原則と実際 (1) 洗浄・消毒の原則と実際 (2) 滅菌の原則と実際及び滅菌物の取り扱い 2) ファシリティ・マネジメント(施設管理)の原則と実際 (1) 廃棄物、給食、空調、水、清掃、リネン管理 (2) 建築・改築時のリスクアセスメントと対策	6. 洗浄・消毒・滅菌とファシリティ・マネジメント	15	1) 洗浄・消毒・滅菌の原則について理解し、説明することができる。 2) 洗浄・消毒・滅菌が適切に行われるために、感染管理認定看護師が行う活動内容について理解し、実践できる。 3) ファシリティ・マネジメント(施設管理)の原則と実際について理解し、実践できる。	1) 洗浄・消毒・滅菌の原則と実際 (1) 洗浄・消毒の原則と実際 (2) 滅菌の原則と実際及び滅菌物の取り扱い 2) ファシリティ・マネジメント(施設管理)の原則と実際 (1) 廃棄物、給食、空調、水、清掃、リネン管理 (2) 建築・改築時のリスクアセスメントと対策	変更なし。
計	120			計	120			

認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)
新旧対照表(感染管理)

別紙

下線部は改正箇所

【学内演習/実習】

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
1. 学内演習	90	1) 自施設における医療関連感染予防・管理システムについてアセスメントを行い、具体的課題と対策を明文化することができる。 2) (1) で明らかになった課題及び対策を反映したプログラムを立案することができる。 3) エビデンスに基づいた医療関連感染予防・管理に必要な情報収集と分析ができる。 4) 組織横断的かつ主体的な改善活動を行うためにプレゼンテーション、文書作成などの必要なコミュニケーションスキルを習得できる。 5) 基本的な微生物学的検査の意義・実施方法・解釈の方法について理解し、実践できる。	1) 医療関連感染予防・管理プログラムの立案（講義での学びを基に各施設における感染管理・予防上の課題を把握・考察し、各施設に応じたプログラムを以下の7項目にそって立案） ・ 医療関連感染予防・管理システム ・ 医療関連感染サーベイランス ・ 感染防止技術 ・ 職業感染管理 ・ 感染管理指導 ・ 感染管理相談 ・ 洗浄・消毒・滅菌とファシリテイ・マネジメント 2) エビデンスに基づいた医療関連感染の予防と管理に必要な情報収集と分析 ・ 日本語及び英語文献の検索方法と読み方 ・ 感染予防策の有効性に関する科学的根拠の検索方法とエビデンスレベルに関する判断 ・ 医療関連感染の予防と管理に関する科学的根拠の評価 3) 主体的な改善活動を行うために必要なコミュニケーションスキル（プレゼンテーション、文書作成など） 4) 微生物検査（15時間以上） 細菌グラム染色、細菌分離培養及び同定検査、薬剤感受性試験	1. 学内演習	90	1) 自施設における医療関連感染予防・管理システムについてアセスメントを行い、具体的課題と対策を明文化することができる。 2) (1) で明らかになった課題及び対策を反映したプログラムを立案することができる。 3) エビデンスに基づいた医療関連感染予防・管理に必要な情報収集と分析ができる。 4) 組織横断的かつ主体的な改善活動を行うためにプレゼンテーション、文書作成などの必要なコミュニケーションスキルを習得できる。 5) 基本的な微生物学的検査の意義・実施方法・解釈の方法について理解し、実践できる。	1) 医療関連感染予防・管理プログラムの立案（講義での学びを基に各施設における感染管理・予防上の課題を把握・考察し、各施設に応じたプログラムを以下の7項目にそって立案） ・ 医療関連感染予防・管理システム ・ 医療関連感染サーベイランス ・ 感染防止技術 ・ 職業感染管理 ・ 感染管理指導 ・ 感染管理相談 ・ 洗浄・消毒・滅菌とファシリテイ・マネジメント 2) エビデンスに基づいた医療関連感染の予防と管理に必要な情報収集と分析 ・ 日本語及び英語文献の検索方法と読み方 ・ 感染予防策の有効性に関する科学的根拠の検索方法とエビデンスレベルに関する判断 ・ 医療関連感染の予防と管理に関する科学的根拠の評価 3) 主体的な改善活動を行うために必要なコミュニケーションスキル（プレゼンテーション、文書作成など） 4) 微生物検査（15時間以上） 細菌グラム染色、細菌分離培養及び同定検査、薬剤感受性試験	変更なし。

**認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)
新旧対照表(感染管理)**

別紙

下線部は改正箇所

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
2. 臨地実習	180	1) 所属施設での感染管理活動に活用できるよう、実習施設における医療関連感染予防・管理プログラムと感染管理担当看護師の役割を理解し、一部実践できる。	所属施設での感染管理活動に活用できるよう、実習施設における医療関連感染予防・管理プログラムと感染管理担当看護師の役割を理解し、下記の7項目すべてについてそれぞれ一部を実践する。 1) 医療関連感染予防・管理システム 2) 医療関連感染サーベイランス 3) 感染防止技術 4) 職業感染管理 5) 感染管理指導 6) 感染管理相談 ・ 地域連携に関わる指導、相談を含む 7) 洗浄・消毒・滅菌とファシリティ・マネジメント	2. 臨地実習	180	1) 所属施設での感染管理活動に活用できるよう、実習施設における医療関連感染予防・管理プログラムと感染管理担当看護師の役割を理解し、一部実践できる。	所属施設での感染管理活動に活用できるよう、実習施設における医療関連感染予防・管理プログラムと感染管理担当看護師の役割を理解し、下記の7項目すべてについてそれぞれ一部を実践する。 1) 医療関連感染予防・管理システム 2) 医療関連感染サーベイランス 3) 感染防止技術 4) 職業感染管理 5) 感染管理指導 6) 感染管理相談 ・ 地域連携に関わる指導、相談を含む 7) 洗浄・消毒・滅菌とファシリティ・マネジメント	変更なし。
計	270			計	270			

【時間数】

共通科目	105 時間 (+305 時間)
専門基礎科目	120 時間
専門科目	120 時間
演習/実習	270 時間
総時間	615 時間 (+305 時間)

共通科目	105 時間 (+305 時間)
専門基礎科目	120 時間
専門科目	120 時間
演習/実習	270 時間
総時間	615 時間 (+305 時間)